



JEG ニュースレター 125号

www.jegch.jimdo.com

2012年5月28日発行

小さな証

2年間の日本での研修を終え、増えた家族と共にスイスでの生活を再開した中村有志兄の胸に去来するもの。



家庭集会

ベルンに続き、バーゼルにも家庭集会が再開され、チューリヒには家庭集会夜の部が5月から始まりました。



お誕生日おめでとう。

バーゼル市にお住まいの元OMF宣教師エリザベート・デベリン師が80歳の誕生日をお迎えになりました。



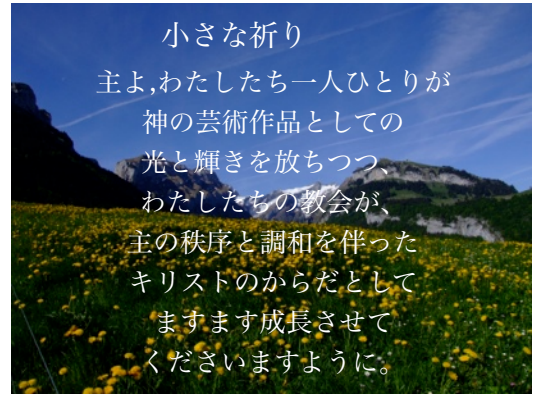
スリムカンファレンス

北イタリア・ベルガモ郊外で未来を担う若きクリスチャンによってSlimカンファレンスが4月に開かれました。



小さな祈り

主よ、わたしたち一人ひとりが神の芸術作品としての光と輝きを放ちつつ、わたしたちの教会が、主の秩序と調和を伴ったキリストのからだとしてますます成長させてくださいますように。



もしわたしたちが御霊によって生きるなら、御霊に導かれて進もうではありませんか。

ガラテア5：25



復活されたイエス様は愛する人々と40日間共におられました。イエス様が天の御父のもとへ昇られる時、イエス様は彼を愛して止まない人々に言いました。「私が去っていく事はあなたがたにとって益です。私が去ると助け主が来るから。その方は真理の御霊でああなたがたといつまでも共におられ、あなたがたの内に住まわれます。」

真理の御霊は私達に父なる神と救い主イエス様を指し示し、イエス様の言葉を思い出させてくださいます。そのイエス様の命(いのち)に生かされ、満たされている事を私達はいつも心に留めているでしょうか。

スイスJEG 5月13日の主日礼拝

ちいさな証

まだまだクリスチャン一年生

中村有志

スイス日本語福音キリスト教会会員



私たちがスイスに戻ってきて早3ヶ月が過ぎようとしています。時間が経つのは本当に早いものですね。スイスで洗礼を受け、早2年、キリスト教に出会って早9年、洗礼を受けるまでにやや時間がかかりましたが、このように導いて下さった神様に感謝して

います。洗礼を受けるまでにさまざまなことがありました。病気にかかり、仕事は止めざるを得なくなり、どうしようもない気分になったものです。しかしそれが実は神様の導きだったのだと今改めて感じています。

今はまだクリスチャンではなくて、でもキリスト教に興味があり、苦難の中にある人がいればそれはある意味ではチャンスなのかもしれません。神様があなたのドアをノックしてくれているのでしょうか。後はあなたがそのドアをオープンするだけです。心から神様を信じて聖書を読んで祈ってみてください。時間がかかるかもしれませんが、必ず神様が道を開いて下さいます。私が保証します。

私の場合は、病気にかかったことで本当に心から神様を信じるようになりました。病気になったことは災いだったようにも思われますが、私はそう思ってはいません。むしろ病気になったことが良かったように思います。病気にかかったおかげでクリスチャンになり、神様がいつもいて下さるようになったのだから。つらい時があっても神様がいて下さると思うと自然にうれしく明るくなりますよね。

今も病気は完全には治っていませんが、特につらいと思うことはありません。いつの日か必ず治して下さいと信じています。そのためには神様のために奉仕しなくてははいけません。いつも神様にお願いしているだけではいけないと思い



つつも、何も出来ていない自分をこれから変えていかなくてはいけないのが今後の課題です。

私が初めて聖書を読んだ9年前に、本当に感銘を受け大事なことだなんて思い今でも心がけている御言葉を紹介したいと思います。それはマタイの書7章12節「何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい」今後も毎日元気で明るく楽しく、誰にでも元気・笑顔を与えられるような人になりたいと思う今日この頃です。今日もいつでも神様は私たちを見守って下さっています。そう思うと毎日が楽しいですね。今日も明るく頑張っていきましょう。

もしも若い方でクリスチャンに興味がある人がいれば、私で良ければ何でも相談してください。私もそうでしたが、キリスト教について全く分からない時に誰に相談してよいか？、何をすれば

良いのか？こんな小さなことでも質問して良いのか？など不安に思ったものです。クリスチャンのことなどについてはプライベートのことなのではずかしくて相談できない人もいると思います。また祈り方が分からないなどもあると思います。お祈りは特に難しい言葉を使う必要はなく、自分の思いを心をオープンにしてそのまま神様に伝えればいいと思います。そのほかにも、私の場合家族が皆クリスチャンでは無いので、もし自分がクリスチャンになったら家族はどう思うだろうと長い間葛藤がありました。

私もまだまだクリスチャン1年生です。これから神様が喜んで下さるクリスチャンとなれるよう励んでいきたいと思っています。まずは、長い間聖書をじっくり読んでいないので、妻と共に少しずつ聖書を読みじっくりと考える時間をもちたいと思います。神様の愛に満たされた愛溢れる幸せな家庭を築いていきたいと思っています。





1、スイス日本語福音キリスト教会の4月22日の主日礼拝は北イタリアで開催されたSLIMカンファレンスにメッセンジャーとして来られた埼玉県浦和福音自由教会の坂野慧吉牧師をスイス教会にお招きして、礼拝をもつ幸いを得ました。坂野牧師は「教会は神の



5、エリザベート・デバリン宣教師が4月23日80歳の誕生日を迎えられました。おめでとうございます。デバリン宣教師は、1957年からOMF宣教師として北海道静内にてお働きになり、帰国後も日本と日本人を愛し、バーゼルで長年家庭集會を開いておられました。スイス

畑、神の建物」をテーマに、1コリント3章1-17節（通訳は、ゲルスタ・ウエンディ師）から解き明かしをして下さいました。牧會は、『魂の配慮』であり、失われた魂を救いに導くこと、迷い出た人の信仰の回復、罪を犯した人の悔い改めと赦し、弱い信仰者を強めること、強い信仰者を躓きと間違った教えから守ることを意味する。そしてこの牧會の務めは、牧師だけではなく、信徒もその大切な役割を担っていると説かれました。なお、坂野牧師のメッセージはスイス JEGのHPからお聴き頂けます。<http://jeg.meielisalp.ch/>

JEGでは、寄せ書きのお祝いカードと花束を岩佐姉と大島姉に託し、デバリン師のもとにお届けしました。デバリン師から日本語での礼状が届きました。

ウスター教会の皆さん！先週、私は80才になりました。とても年をとったなあという気持ちです。今年の誕生日は沢山のかたが、お祝いに来てくれたり、カードを送ってくれたりしましたが、午後になると、私は大変驚きました。ベルがなって外にでると、二人の若い日本人が、ウスターからのプレゼントを持って立っていました。かごの中にたくさんの赤い花、バラやガーベラ、菊とかが、大変美しい押し花をアレンジしたカードを添えて入っていました。ここ数年ウスター教会に行けなかったのに、このような素晴らしいプレゼントを頂いてとてもうれしかったです。お祝いメッセージを読んで、みなさん、ひとりひとりの顔を想像しました。どうも有り難うございました！！エリザベート・デバリン

2、第一回、チューリヒ家庭集會の夜の部が、昨年末スイス教会の群れに加わったVolketswilのトムセン家で、4月13日に始まりました。5月18日（金）の19時半から持たれた集會は、ドイツ語と日本語のグループに分かれ、大変祝福されました。感謝。次回は7月6日に行われる予定です。

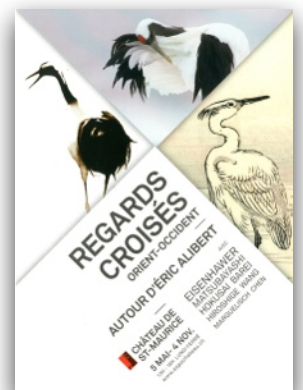
6、92年から96年までスイス教会に通っておられた高尾まゆみ姉は浦和福音自由教会の会員で、現在、筋萎縮性側索硬化症（ALS）と闘っておられますが、車いすで月一度、夫君と礼拝に来られ、教会にとっても大きな祝福になっているとのこと。高尾姉のブログ”ニューロンくん、がんばれ”は次のURLでお読み頂けます。http://blog.goo.ne.jp/usagi2009_2009

3、新緑の5月からバーゼルの家庭集會がマルティン祐子姉家で再開されました。第2水曜日の12時半から昼食を交えたあと、聖書の学びと賛美の時を持っています。次回の集會は、6月13日12時半からの予定です。連絡先：ゲルスタ・ウエンディ師へ。新しく生まれた二つの家庭集會を、そのことを可能にくださった主に感謝するとともに、皆様のお祈りをお願いします。

7、4月12日から15日まで北イタリア・ベルガモ郊外のSan Pellegrino Termeで、坂野慧吉、中野雄一郎、毛利陽子、清水摂氏をメッセンジャーとして迎えて参加者70余名とともに開催されたSLIMカンファレンスはとても祝福され、参加者は勇気と燃える心をもち帰途につきました。スイス教会から参加した今村葉子姉の報告並びに増谷兄のアンケートのまとめをNLでお読みください。また、会期中に撮った写真や、メッセージ・ワークショップの動画などを下記Facebookページに掲載されていますのでこちらも併せてぜひご覧ください。www.facebook.com/slimconference

4、4月13日（金）に東日本大震災の被災地にて働くオアシスライフ・ケアの本部が置かれた仙台利府キリスト教会<http://oasislifecare.org/>ならびに19日（木）には東京お茶の水クリスチャンセンター内の東日本大震災救援キリスト者連絡会DRCnetへ、スイスJEGからの特別献金が松林兄によって直接届けられました。菊地兄、利府教会からのビデオメッセージ”東北からのメッセージ”は以下のURLでご覧頂けます。www.youtube.com/watch?v=IQh0MA3-bOo

8、スイス南部ヴァリス州ローヌ渓谷にある St-Maurice城にて5月5日から「Regards Croisés, Orient-Occident」西洋と東洋の自然への視点の交差をテーマに、東西6人の芸術家の作品が展示されています。www.expochateau.ch 東スイスおよび日本の自然を描いた松林兄の十数点のリトグラフ作品も、北斎、広重の版画とともに展示されています。11月4日まで開催されています。



9、オーニング宣教師およびラシェンコ・ベラ宣教師からの Rundbrief、工藤篤子メールマガジン183/184号、吉村美穂NL62号、井野葉由美メールマガ87号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、パリ教会パルターージュ、河村昭夫・紀子NLが届いています。読みたい方、定期的な受け取られたい兄弟は松林までお知らせください。

4月22日、5月13日の礼拝／愛餐会から



日出ずる国から

日本の春を楽しんでいます。

東京は町田市の
クンツ・プリシキラ、クンツ母娘から



最近、私の属している教会の着物の着付けをしておられる先生から、春の柄の入った美しい着物を、折から滞在中の母とともに着せていただきました。

(写真) いつも、私と私の教会のために取りなしの祈りを捧げてくださっているスイス教会のみなさんに感謝しております。

クンツ・プリシエラ
<priscillakunz@yahoo.co.jp>

短い滞在期間ですが、娘のプリシキラとタビタの間も良く行き来して、移動しています。日曜は異なった教会で礼拝を守っていますが、新しい人々との感動的な出会いが沢山ありました。特に日本料理は美味しくて心から楽しんでいます。

クンツ・ルツ

40もの団体が力を合わせています。

東京はお茶の水DRCnetの
松下瑞子姉から

スイス日本語福音教会の皆様、



本日、4月18日、皆様の尊い献金を携えて、松林幸二郎兄弟が、東日本大震災救援キリスト者連絡会(www.drcnet.jp/201110/)を訪ねて下さいました。皆様の

暖かいお心に感謝致します。

DRCnet(は、3.11震災直後、超教派の宣教団、教会、救援団体が集まり、福音派だけではなく、NCCやカリスマ系宣教団も加わり、現在は40団体以上が共に、救援という働きのために、協力して活動しています。皆様のご存知のクラッシュや利府の教会も共に歩む団体です。

DRCnetそのものは直接救援活動をしておらず、コーディネーターとして、支援団体と被災地の教会及びそこを通しての支援。また、必要に応じて幾つかのプロジェクトを進めております。現在進めているのは、以下の様な働きです。

- 1, LED十字架設置。韓国からの支援により、被災地の教会の十字架設置支援。
- 2, 説教支援プロジェクト：DRCnetとクラッシュ・ジャパン共同プロジェクト。被災地教会が礼拝に外部講師を招く時の人的、経済的支援
- 3, 放射線線量計の配布、その為に多くの資金が必要です。
- 4, 被災地ネットワークの代表者会議主催
- 5, 災害チャプレン養成プログラム(救世軍の災害時活動)コースの導入
- 6, 阪神淡路大震災からの学び：宣教にたいして、キリスト教への好意度が日と共に薄れて行ったことへの反省とそれへの対応、方策。
- 7, 被災地での必要物資、霊的な助けを捉え、関係団体にコーディネート。

DRCnetの働きが何時迄続くか分かりませんが、少なくとも後一年は続く予定です。どうかこの働きのために、これからもお祈りとご支援を宜しくお願い致します。主にあって！松下瑞子

<mizuko.m822@gmail.com>

オッ、ヨシ君、お久しぶり！

被災地仙台からの報告

松林幸二郎

4月13日、朝7時に成田空港に降り立ち、東京駅と仙台駅を経てローカル線に乗り継いで、ようやく利府駅につくとヨシこと、神学生・菊地祥彦君が笑顔で私を待っていました。優しく人懐っこい笑顔は昔そのままでしたが、3年ぶりに見る菊地君は少し痩せてしまったようでした。厳しい勉学と、利府教会が展開する大震災被災地支援活動オアシスライフ・ケアの中核的な働きとを両立させているゆえ無理からぬことなのでしょう。



利府教

会では、会議を終えたばかりの教会のメンバーにスイス教会からの献金を手渡すと、これまでの支援に対して深い感謝の気持ちを伝えられました。スイス教会のメンバーから菊地君へのビデオメッセージを観たあと、松田牧師が大震災時の状況から今日までの取り組みや今後の課題をお話し下さいました。

現在、オアシスライフ・ケアは、“明日の為に働き”の一環として、南三陸町志津川の内職支援(革細工)と金華ほや帆立養殖復興支援を行っていますが、その一つで養殖漁民の支援を行っている石巻市の海友支援隊に向かいました。石巻市は3837名の犠牲者を出した震災後一年経ったいまでも 港湾部に向かうにつれ、凄まじかった津波被害の状況があらわでした。



ここで活動している海友支援隊メンバー4人はかつて

の高校同級生で、4人とも家や多くの身内、友人を一度に失うという身を切られような試練に遭い、支え合おうと集まった同志です。彼らにJEGの姉妹や娘たちからの支援基金を届けると、遠いスイスからも支援されているということに、漁民たちも支援隊のかたも大きな勇気と感動を頂いたと喜ばれました。“相手が目に見える”支援の必要性を痛感させられました。 www.kinka-hoya.com/report3.html#20120413

翌日の午前中はヨシ君の案内で、仙台市で多くの犠牲者を出した若林区、宮城野区そして名取市などの被災地を回りました。かつて住居が立ち並び、その“瞬間”まで普通の生活が営まれていた痕跡のみ残る、見渡す限りの荒亡とした跡地を前に、想像を越える被害の深刻さと被災者の苦悩を肌で感じました。

丸一日とはいえ本当に僅かな滞在時間でしたが、東北の人々は“忘れられていく”という危



機感を強く持っており、一人でも多くの人が、たとえ“興味”のみが動機であっても東北の地を訪れて欲しいと願っていることを知りました。

“復興”は今始まったばかりです。が、活動はあと一年というCrashほか、支援団体が次々と活動を終えようとしています。スイスでももう震災のことはマスコミにも扱われなくなり、当の日本ですら忘れ去りつつある中で、私たちは、これからの可能な限りの支援を続け、世界に向けて発信を続けていかなばならないと痛感しました。キリスト者としても、人間としても一回り大きく成長をしたヨシ君の姿を後にして、東京に向かう新幹線のシートに身を沈めました。(14.4.2012)

スリム カンファレンス報告

SLIM (Servant Leaders in Ministry Conference)

San Pellegrino Terme (Italy)
12.-15. April 2012

私の魂の必要が満たされた大会

今村葉子

スイス日本語福音キリスト教会

この大会での素晴らしい学びを少しでも皆様にお分ちさせていただきます。まず、このカンファレンスは元々年に一度、英国/欧州青年リトリートとして行なわれていました。

今年から大会名が「キリストに仕える者」と改まり、趣旨がはっきりと示され



また年齢制限もなくなったので青年をすっかり過ぎ参加をあきらめていた私も子供の保護者としての身分を利用する事なく大手を振って参加できるようになったのです。

大会初日のオリエンテーションで大会会長のミラノ賛美教会の内村先生がこのカンファレンスの五つの目的を述べられました。

- 1、主イエスキリストに出会う事 (ヨハネ12:11)
- 2、イエスの体とはなにか?を知る事 (エフェソ4:11、12)
- 3、聖徒として整えられ、自分の役割を明確に知る事。(エフェソ4:11、12)
- 4、成熟したキリスト者を目指す事。(1コリント14:20)
- 5、キリストを証し、宣教すること。イエス様に教えられ、教える者となる。(マタイ28:20)

大会のプログラムの全てはこの目的に沿って企画されており、毎日のプログラムもまずスモールグループでテキストを用いて学び、互いに分かち合いながら、



み言葉を十分に思い巡らし、その後続く講演やワークショップでさらに深く理解する。そのような流れのあるものでした。

大会メッセンジャーとして立たれた坂野慧吉先生は聖書神学を学問としてだけでなく、現代に生きる私達の魂に焦点を当てた心情深い講演でしたし、中野雄一郎先生は笑いとユーモアに溢れながらも一人一人にキリストに向かう情熱の有無を鋭く問いかけるメッセージでした。

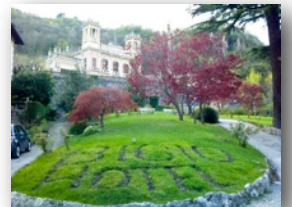
またワークショップでは、スモールグループをボート競技に喩え、主の導きで乗り合わせた者同士が神様の目的に向かってどのようにゴールへ向かうのか、その素晴らしさと主が導く流れを読む大切さをご自身の証を交えてお伝え下さった毛利陽子師、また宣教の実践をパワフルに語って下さった清水



撮影師がご奉仕下さいました。そして大会期間中、ロンドンの立山仰先生、内村先生をはじめSLIM大会の実行委員の皆様は主の羊の群れにある喜びにいつも溢れておられ、主に仕える姿を教えられました。

この集会の折々で私は涙が溢れて止まらないことが何度もありましたが、それは私だけに起きた現象ではなく参加された方々すべてに現れていました。主に心を触れられた時に人は涙す。と常々聞かされていましたが本当にその通りでした。私だけでなく参加者全てが主の愛に満たされていたのだと思います。

最後に非常に個人的な事をお話させて頂き大会のお分ちを終えたいと思います。私は一昨年に大親友を、昨年秋に父を、そして今年始めに義母を、本当に愛して止まない人を相次いで天へ見送りました。神様に召される事の厳粛さに圧倒され呆然とし、何とも言えない喪失感を覚える日々を送っていました。何もかも止めて休みたい、一人になりたい。そんな思いにとらわれながらも私の魂は主の導きを渴望しており、また共に共感してくれる友を求めています。この大会で私の魂の必要を神様は豊かに与えて下さいました。



この神様の深い配慮に応答する者に変えられたいと今、切に願っています。キリスト者であり神様に深い信頼を寄せる者でも魂は痛み傷つくと思います。傷の手当を受けた事がない者がどうして心に傷を持つ友に寄り添うことができるのでしょうか？

この集会でまず私自身が傷を手当てされなければならない者である事を知る貴重な機会にもなりました。神様の愛の技は人を通して行なわれるのだと思います。このように私達を創造して下さった神様に心から感謝を捧げます。



スリム カンファレンス アンケートのまとめ

奉仕の喜びを再認識

増谷啓

SLIM実行委員・総務

シュトゥットガルト日本語教会

みなさま、こんにちは。SLIMの働きを覚えてお祈り下さりありがとうございます。

10年以上前、まだ私が信仰を持って間もない頃、横山宣教師ご夫妻が主催して下さった青年リトリートに参加させていただいたことがあります。ロンドン郊外の教会の施設を用いて、みんなでカレーを作ったり、寝袋で教会に泊まったりした楽しい思い出があります。

それから子供が生まれ、ドイツに住むようになり、「自分はもう青年ではないな」と思っずと青年リトリートには参加していませんでした。今回は「青年」という2文字がなくなったこと、そして主催者側として声をかけていただいたこともあり、許されて参加することができたことを非常に嬉しく思っています。

10年前のことを思い出しながら、昔の自分のために労を担って下さった先生方のことを思いだしながら、文字通り「奉げて仕える」を通して「奉仕」の喜びを再確認させていただくことができ感謝しています。

さて、個人的な前置きが長くなってしまいましたが、この度は最終日に寄せられたアンケートもまとめさせていただきました。一部のみのご紹介となりますが、以下に分かち合わせさせていただきます。

アンケートのまとめ

●全体集会について

三人の先生方は、それぞれのキャラクターと話しぶりがぜんぜん違うタイプなのに、共通項がはっきりとあり、励まされました。テーマが全体としてハーモニーを生んでいたことに感動しました。分かりやすく、心震えるメッセージ。メッセージのレベルが高く（霊的・人格・教えの賜物）力強いメッ

セージに目が開かれ、チャレンジを受け、同時に励まされました。中野先生からの励まし、坂野先生からの牧会について、今後やることとその力をいただきました。賛美の時間をもう少し。共に祈り分かち合う時間をもう少し。賛美チームのリードによる一体感のある賛美。

●スモールグループ (SG) について

教会の具体的な役割をみことばから学べた。プラクティカルな面と心の持ち方を両方学べた。SGは目的を持ってするものと理解できた。設問の量が多かった。様々な教会での実情から質問が出て参考になった。個人の悩みとかを話し合えるような時間が欲しかった。分かち合いでなく聖書の学びであったこと



新鮮でした。SGならではの発見を他の方々から教えられた。

同じ性・年代で話しやすかった。立場もやっていることもまったく違うメンバーでしたが、だからこそ多くのことを学べました。「教会」についての学び、私のためだった・・・！と思ったほどでした。分かち合い中心のSGが全体集会後あってもよかったかも。SGの内容とメッセージが繋がり、一貫したテーマで皆が分かち合えた。

●ワークショップについて

パラレルセッション。どちらに出るのか迷ってしまったがとっても充実した時間だった。人数・時間のバランス。即実践・適応できる内容だった。自分自身や教会、集会のあり方を分析する良いきっかけとなった。先生方がより身近に感じられ、今までの不安・不明な点を相談できた。

一方的な講義スタイルでなく、応答的でやり取りや祈りの時があった。種類がもう少しバラエティに富んでいると良いかも。中野先生の証&コミュニケーションの大切さが実際

的、実践的で役に立った。帰国者への関わり方が具体的にわかったこと。「賜物発見」が自己吟味の時となり良かった。

●その他全般

賛美歌を通して伝道していく決心ができた。牧会を始めたい。JTJでの学びについて決心が与えられた。神学校で勉強したい。メンター、ペアメンターを探したい。SGを始めたい。今関わっている



難しい問題にもう一度逃げずに取り組むよう示された。気づいていなかったことや、自分に弱い部分に向き合わせてくれた。はじめは戦いの場から逃げるような気持ちで参加したけれど、再び遣わされた場所で挑戦するエネルギーとチャレンジを与えられた。

神様が今海外に置かれた目的を最確認し、これからも継続する力を与えられた。久しぶりによき知らせ（福音）を「体験」した。地図も分かりやすく迷わず到着できた。食事時間が長く、その時間に交わりを持てた。野菜&果物が少なかった。美味しい！場所は最高でした。景色だけでも癒されました。

SLIMのビジョンが凄く良かった。これ以上はないというくらい素晴らしい神様との時間、皆との時間を過ごすことができました。参加費を抑えて安く参加出来るのもっと良い！SLIM13もぜひやりましょう！人との出会いとは、文字通り、出て行って会う、ということなのですね。SLIMでの出会いは、さらに神さまとの出会いでもありました。情熱をもって語りつくして下さったスピーカーの方々、全てを手配して下さったスタッフの皆様、何よりも神様に感謝いたします。

